

大切な命が最優先事項

危機意識とハウレンソウ

2018.07.18

No.26

校長 渡邊 幸二

報道等でご存知のように、愛知県豊田市の小学校1年生が熱中症のため亡くなりました。大切な命が失われたことが残念ではありません。ご冥福を祈るばかりです。

報道によりますと、その日の豊田市の最高気温は37.8℃。おそらく生活科の学習の一環で校外学習に出かけたものと思います(虫捕り?)。約1キロメートル先の公園へ徒歩約20分かけて、想像するに炎天下の中歩いていったのでしょうか。強い日差しをさえぎる物がない場所が多いでしょうから、体感温度はもっと暑かったに違いありません。



STOPの発想はなかったのか

こうなっては全ての責任は校長にあります。記者会見でも「私の判断が甘かった」と述べているようです。その日1年生の校外学習があることは事前にわかっていることですから、それを黙認したことになるので責任は重大です。

不思議でならないのは、こんな炎天下の活動に対して、担任を含め学年の教師、教頭・教務、養護教諭などの教員の誰一人反対しなかったのかということです。ある新聞記事には「暑いから活動を止めるということは困難」という旨の記事がありましたが、それもおかしな話です。最終責任者である校長が「ストップ!」を言うのは当然ですが、誰か出発前に「ハウレンソウ」をすることはなかったのでしょうか。おそらく校長をはじめ先生方の中に「今日やらないと、あとが大変!」という“活動ありき”の発想、前例踏襲の考えがあったのではないかと思うのです。(多くの危機管理フィルターが機能しなかったということ)

(1) 安全・安心な学校(=最優先に)

全ての教育活動において、一番先に考えられるべきことは「安全・安心」です。それが脅かされるような教育活動を行うべきではないし、教育環境も見直す必要があります。特に、「これまでやってきたから……」という発想には往々にして危険をはらんでいます。それはかなり危険なことかもしれません。それは傍から見ると「体罰」かもしれません。どうか子どもが笑顔で「学校大好き!」と言えるあたたかな学級づくり、教育活動づくりをお願いします。

もちろん、子どもたち自らが安全管理・自己管理できる力をつけられるようにすることも必要です。
(校長室だよりNo.1より抜粋)

今週はまだ今日のような過ごしやすい天気が続くようですが、来週は35℃を超える猛暑となりそうです。外での活動はもちろん、屋内においても危険が予測できる場合は教頭に相談する危機意識を持ってください。安全・安心を最優先でお願いいたします。